

SCG062-P08

会場:コンベンションホール

時間:5月26日 16:15-18:45

海陸地震観測網を用いたひずみ集中帯における応力場の推定 Estimation of stress field in the Niigata-Kobe Tectonic Zone by a marine and land seismic network

真保 敬^{1*}, 町田 祐弥¹, 篠原 雅尚¹, 山田 知朗¹, 望月 公廣¹, 金沢 敏彦¹

Takashi Shinbo^{1*}, Yuya Machida¹, Masanao Shinohara¹, Tomoaki Yamada¹, Kimihiro Mochizuki¹, Toshihiko Kanazawa¹

¹ 東大地震研

¹ ERI

日本海東縁部にはひずみ集中帯が存在し、規模の大きな地震が何度も発生している (Sagiya et al., 2000)。そのような地震の発生メカニズムやひずみ集中帯の形成過程を解明するためには、詳細な震源分布を把握し、その領域での起震応力場を推定することが重要である。最近では、2004年中越地震や2007年中越沖地震の余震の震源メカニズムを用いて、震源域周辺の応力場の推定が行われた (Imanishi et al., 2006; Imanishi and Kuwahara, 2009)。陸上観測点のみで沖合いの地震の震源を精度良く決定することは難しいため、それらを用いて新潟県周辺海域における応力場を正確に推定することは困難である。しかしながら、海底地震計を用いることによって海底下で発生した地震の震源を精度良く決定することにより、正確な応力場を推定できると考えられる。真保・他 (2010) は、新潟県上越沖に設置した長期観測型海底地震計 (10台) と陸上の定常観測点を用いて、2008年12月から2009年10月までに発生した地震の震源決定を行い、340個の発震機構解を決定した。本研究では、これまでに海陸地震観測網によって決定された発震機構解の詳細な検討を行い、さらには、新潟県周辺海域下の応力場を推定する。